



第2740地区 創立/1990年9月29日 認証/1990年10月22日

佐世保中央ロータリークラブ週報

会長：南部 建 / 副会長：前田 眞澄 / 幹事：田中 啓輔

2019～2020 年度クラススローガン

**ロータリーの和（輪）を広げよう
社会（ふるさと）に貢献しよう**

週報編集 / 公共イメージ・会報委員会：井手 陽一、川島 千鶴、西村 浩輝、崎元 英伸、有吉 中

本日の出席率80.95%：会員数47名・出席30名・欠席13名・出席規定免除会員4名・ビジター0名
前々回の修正出席率86.95%：出席27名・メイクアップ5名・出席規定免除会員8名



会長挨拶 / 南部 建君



皆様 こんにちは。昼間はまだまだ暑いですが朝晩はだいぶ涼しくなってきました。秋が近づいて来ている様に思います。気温差で体調を崩さないように気を付けて頂きたいと思います。

30周年の件で皆様に報告があります。まず30周年の大会会長に

竹本慶三さん、副会長に指山康二さん、実行委員長に井上亮さんが決定いたしましたのでご報告をいたします。是非、御三方には一年間体調を整えて頂き、素晴らしい30周年の事業を成功させて頂きたいと思いますのでよろしくお願い致します。

昨日は市内8ロータリークラブの会長幹事会がセントラルホテルでありました。中央ロータリークラブの担当は1月ですが、セントラルホテルで2回するわけにいかないのでは会場を考えています。

今日は皆様に住宅取得の件で情報があります。消費税が10月から10パーセントになりますが、国の補助金が色々と優遇措置を講じる様です。まず住まいの給付金の増額、そして所得税控除の延長などがあります。8パーセントの時よりもお得な場合がありますので、その時はご相談下さい。



ニコニコボックス

佐世保西RC 酒井 英士様

佐世保西RCの酒井です。南部会長、田中幹事、昨日の会長幹事会はお疲れ様でした。本日はお世話になります。

南部 建会長・前田 眞澄副会長・田中 啓輔幹事

本日は、佐世保西 RC 酒井 英士様、のご来訪誠にありがとうございます。さて本日の例会は、社会奉仕委員会の担当で、佐世保市子ども未来部 福祉事務所・副所長の須藤貴光様による卓話となっています。須藤副所長よろしくお願ひします。

本田 実君

結婚祝いのお花、ありがとうございました。

川島 千鶴君

親しくしている元NIB支社長 発明協会の森崎様のご紹介で早瀬様という方より、皆様へ週末開催の講演会案内を預かりました。引き出しに入れておりますので、ご興味のある方はご覧いただき、話を聞きに行ってもらえればとのご案内です。

宮崎 正典君 田添 直記君 筒井 琢磨君

先日、親和銀行青々会の視察旅行でロンドンに行って来ました。その時にパリまで足を延ばし、久しぶりにマリーンに会って来ました。そして、帰国した翌日から佐世保地方創生プロジェクトチーム主催、艦コレのイベントで皆様には大変お世話になりました。協賛をして頂いた方々、事務所を無償で貸して頂いた芥川さん本当にありがとうございました。

Report

幹事報告 / 田中 啓輔君

1. 来 信

■ガバナー事務所

・2740 地区ホームページ更新

①「コーディネーターニュース 10 月号」

②「ハイライトよねやま234」発行



結婚記念日

9月13日 芥川圭一郎・香織 ご夫妻

9月15日 本田 実・由美 ご夫妻

9月15日 片桐 康利・彩 ご夫妻

本日の合計	9,000 円
本年度の累計	347,000 円



本日の卓話

**佐世保市子ども未来部
次長 兼 子ども政策課長
福祉事務所副所長
須藤 貴光 様**



～佐世保市の子ども・子育て事情～

1. 子ども・子育てを取り巻く現況について

まず、子ども・子育てを取り巻く現況に関し、「出生数・合計特殊出生率」と「待機児童数」の2つの指標を用いながら説明いたします。

「出生数」ですが、人口減少・少子高齢社会を背景に、全国では2016年に100万人割れ、その後減少傾向が続き、2018年の出生数は91.8万人となっています。佐世保市では、近年、出生数・合計特殊出生率ともに減少傾向にあるものの、合計特殊出生率は、全国平均1.43を上回っており、また、人口が同規模の自治体と比較して高い水準にあります。

「待機児童数」ですが、全国では、2019年4月1日現在で16,772人、調査を始めた1994年以降で最少となっているものの、依然として高い水準であり、政府は2020年度末までに「待機児童ゼロ」を掲げていますが、目標達成できるかどうかは不透明な状況です。佐世保市では、平成17年度（2005年度）以降、年度当初において待機児童はゼロとなっています。

このように、本市における子ども・子育てを取り巻く環境については、厳しい方向にあるものの、大都市の都心部等と比較して、それほどは進行していない状況だと捉えています。

2. 佐世保市の子育て支援の概要について

次に、佐世保市の子育て支援の概要について説明いたします。

本市の強み・特長という面では、中核市としての総合力が挙げられます。中核市である本市では、子育て支援全般に係る主要な施設・機能について、公立（県・市）や法人設置等の形態により総じて整っている状況です。保健所や福祉事務所を始め、児童福祉関係では保育所、認定こども園、幼稚園等が120ヵ所、在宅児の子育てを支援する地域子育て支援センターが10ヵ所、児童健全育成関係では小学生の放課後の安全な遊び場の確保を目的とする児童センターや児童交流センターが9ヵ所、放課後の留守家庭児童を預かる児童クラブが73ヵ所などの施設・機能を有しています。

また、中核市としての拠点性の面では、周辺圏域での子育て支援の拠点となる施設・機能について、先駆的に整備しています。例えば、医師の診療等を通じた障がいや発達に心配のある子どもに対する療育支援施設としての「子ども発達センター」、教職員向けの研修、保幼小連携に係る調査・研究等を実施する幼児教育・保育に関する調査・研修施設としての「幼児教育センター」が特長的な施設・機能として挙げられます。

このような本市の強み・特長を活かしながら、『新ささぽっ子未来プラン』（平成27年度から令和元年度）に基づき、市民ニーズやライフステージ等に応じた多種多様な子育て支援の取組を計画的に展開しています。

3. 子育て支援の評価と今後の課題について

子育て支援の評価について、取組全般において幅広く展開しており、全国の自治体と比較し、総じて見劣りしない状況にあるものと考えています。

そこで、客観的な評価の一例ですが、地方移住の情報誌「田舎暮らしの本」（宝島社）の今年2月号に掲載された2019年版「住みたい田舎ベストランキング」によると、人口10万人以上の「大きなまち」における「子育て世代が住みたい田舎」部門で、アンケート調査に回答した自治体中13位、九州内では、延岡市、北九州市に次いで3位に位置付けられています。

実際、本市における移住者数は年々増加傾向にあり、平成30年度の実績をみますと、長崎県内で最も多く、子育て世帯を含む231人の方々が移住されています。

一方で、課題もございます。市が実施する市民意識アンケート調査によると、子育て支援に対する重要度が高い一方で、市民の満足度は低調な傾向が見られます。これは、子育て支援における本市の強みや幅広い取組に関し、市民がしっかりと実感するまでに至っていない表れだと受け止めています。

また、全国的に子どもを巻き込んだ交通事故や児童虐待の問題など、子どもに関する暗い話題が多い昨今ですが、本市においては、保育園等での園外活動に係る散歩道の総点検に早速取り組むとともに、近年、顕著な増加がみられる児童虐待の相談に対しても、個々に寄り添った対応に努めているところでございます。

このような課題等を踏まえ、今後は、量から質への視点による取組のさらなる充実、情報発信等によるニーズと取組のマッチングのほか、市民や事業者等との協働による子育てしやすい街づくりが求められていると認識しており、第2期『新ささぽっ子未来プラン』（令和2年度から令和6年度）の策定及び推進を通じ、引き続き、意を用いて対処してまいることとしております。



SAA: 野村 和義君
次回例会／10月3日12：30～